

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部
リハビリテーション学科 理学療法学専攻

様式 3

2025年度 教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備 考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
健康医療 スポーツ 学部リハ ビリテー ション学 科理学療 法学専攻	4人	2人	4人	4人	14人	9人	11人	0人	1人	21.7人	
計	4人	2人	4人	4人	14人	9人	11人	0人	1人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	フレッシュセミナーⅠA	15	日置 麻也、加藤 信二	専任
		フレッシュセミナーⅠB	15	日置 麻也、加藤 信二	専任
		フレッシュセミナーⅡA	15	佐藤 正司、小針 友義	専任
		フレッシュセミナーⅡB	15	佐藤 正司、小針 友義	専任
		アドバンスセミナーⅠA	15	仲 貴子、高橋 浩樹	専任
		アドバンスセミナーⅠB	15	仲 貴子、高橋 浩樹	専任
		アドバンスセミナーⅡ	集中	五日市 克利、吉岡 学	専任
		基礎医療英語Ⅰ	15	小林 洋彦	兼任
		基礎医療英語Ⅱ	15	小林 洋彦	兼任
		情報リテラシー 演習・DS概論	30	日置 麻也	専任
		ホリデー留学	15	佐々木 良壽	兼任
		予防と介護	15	佐藤 正司、神間 俊男	専任・兼任
		人間関係論	15	坂本 美香	兼任
		コミュニケーション論	15	庄司 一也	兼任
		異文化理解	15	非開講	
		統計基礎	15	日置 麻也	専任
		社会福祉原論	15	南 牧生	専任

基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	社会保障	15	石川 由美、南 牧生	専任・兼任
		生涯福祉	15	石川 由美	兼任
		ボランティア論	15	南 牧生	専任
		教育原理	15	矢作 信行	兼任
		教育方法・ICT活用論	15	神間 俊男	兼任
		レクリエーション論	15	石井 友光	兼任
		レクリエーション実技Ⅰ	15	加藤 信二、吉岡 学	専任
		レクリエーション実技Ⅱ	15	加藤 信二	専任
		健康とスポーツ	15	植田 央	兼任
		障がい者スポーツ	15	田中 直樹	専任
		SDGs概論	15	小森 次郎、新村 恵美、大塚 淳子、田中 良広、 庄島 幸子、上野 治香、 庄司 一也、小室 讓、 鈴木 一行、小原 道子、 松代 真琳、田澤 茂之	兼任
		SDGs各論A	集中	小森 次郎、上野 治香、 松代 真琳	兼任
		SDGs各論B	集中	大塚 淳子、田澤 茂之、 庄島 幸子	兼任
		SDGs各論C	集中	新村 恵美、小室 讓、 庄司 一也	兼任
		SDGs演習	集中	新村 恵美、小森 次郎	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び 心身の発達	人体の構造Ⅰ	15	田中 直樹	専任
		人体の構造Ⅱ	15	平山 哲郎、小針 友義	専任
		人体の機能Ⅰ	15	大野 哲生	専任
		人体の機能Ⅱ	15	大野 哲生	専任
		人体の構造・機能（実習）	30	大野 哲生、田中 直樹、 平山 哲郎	専任
		運動学Ⅰ	15	五日市 克利	専任
		運動学Ⅱ	15	五日市 克利	専任
		運動学（実習）	15	五日市 克利、吉岡 学	専任
	疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	病因病態学	8	喬 炎	兼任
		臨床医学Ⅰ（内科系）	15	榎本 雪	専任
		臨床医学Ⅱ（外科系）	15	和田 祐一	兼任

専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学Ⅲ（神経系）	15	榎本 雪	専任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	15	和田 祐一	兼任
		リハビリテーション概論	15	田中 直樹	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	15	河村 代志也	非常勤
	人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	8	仲 貴子	専任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	多職種連携の理解	8	仲 貴子	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーションと薬	8	鎗田 英樹	兼任
		リハビリテーションと栄養	8	大野 哲生	専任
		リハビリテーションと救急救命	8	小針 友義	専任
		画像評価学	8	榎本 雪	専任
臨床心理学		15	平山 浩輔	兼任	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域包括ケアシステム論	8	加藤 信二	専任	
専門	基礎理学療法学	基礎理学療法学	15	仲 貴子	専任
		基礎理学療法学実習	30	平山 哲郎	専任
	理学療法管理学	職業倫理職場管理学	15	佐藤 正司	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	15	吉岡 学	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	吉岡 学	専任
		理学療法評価学実習Ⅰ	15	吉岡 学、高橋 浩樹	専任
		理学療法評価学実習Ⅱ	15	吉岡 学、高橋 浩樹	専任
	理学療法治療学	理学療法治療学Ⅰ（運動系）	15	田中 直樹	専任
		理学療法治療学実習Ⅰ（運動系）	15	田中 直樹	専任
		理学療法治療学Ⅱ（中枢神経系）	15	小針 友義、高橋 浩樹	専任
		理学療法治療学実習Ⅱ（中枢神経系）	15	小針 友義、高橋 浩樹	専任
		理学療法治療学Ⅲ（内部障害系）	15	平山 哲郎	専任

専門	理学療法治療学	理学療法治療学 実習Ⅲ（内部障 害系）	15	平山 哲郎	専任
		理学療法治療学 Ⅳ（小児・神経 系）	15	五日市 克利、小針 友義	専任
		理学療法治療学 実習Ⅳ（小児・ 神経系）	15	五日市 克利、小針 友義	専任
	理学療法学				
	疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	予防理学療法学	8	仲 貴子	専任
	理学療法治療学	物理療法学	15	佐藤 正司	専任
		物理療法学実習	15	平山 哲郎、高橋 浩樹	専任
		日常生活活動技 術学	15	加藤 信二	専任
		日常生活活動技 術学実習	15	加藤 信二、高橋 浩樹	専任
		義肢装具学	15	小針 友義	専任
		義肢装具学実習	15	小針 友義、加藤 信二	専任
		運動療法技術学	15	佐藤 正司	専任
		徒手療法学	8	吉岡 学、高橋 浩樹	専任
	地域理学療法学	地域理学療法学 Ⅰ（高齢者）	8	佐藤 正司	専任
		地域理学療法学 Ⅱ（身障・難 病・小児）	8	仲 貴子	専任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	集中	五日市 克利、日置 麻也	専任
		臨床実習Ⅱ	集中	五日市 克利、仲 貴子	専任
		臨床実習Ⅲ	集中	五日市 克利、仲 貴子	専任
		臨床実習Ⅳ	集中	五日市 克利、吉岡 学	専任
	基礎理学療法学	理学療法研究方 法論	15	日置 麻也	専任
		理学療法方法論 実習Ⅰ	15	日置 麻也、加藤 信二	専任
		理学療法研究方 法論Ⅱ	15	田中 直樹、仲 貴子	専任
	基礎理学療法学 理学療法管理学 理学療法評価学 理学療法治療学 地域理学療法学	卒業研究	集中	五日市 克利、大野 哲生、 榎本 雪、日置 麻也、 佐藤 正司、仲 貴子、 田中 直樹、平山 哲郎、 加藤 信二、高橋 浩樹 吉岡 学、筒井 直美、 小針 友義	専任

専門	臨床実習	臨床技能演習	15	吉岡 学、五日市 克利、 高橋 浩樹、佐藤 正司	専任
	基礎理学療法学 理学療法管理学 理学療法評価学 理学療法治療学 地域理学療法学	特別総合演習Ⅰ	15	仲 貴子、五日市 克利、 平山 哲郎	専任
		特別総合演習Ⅱ	15	仲 貴子、日置 麻也、 佐藤 正司、田中 直樹、 平山 哲郎	専任
	保健医療福祉とリハビリテ ーション概論の理念	チーム医療論	8	齊藤 一美、仲 貴子、 高橋 勇二、中江 大、 鶴本 一成、津賀 裕喜 竹内 信、田辺 幸子	専任・兼任
		チーム医療演習	集中	永瀬 つや子、山田 美枝子 柳澤 佳恵、齊藤 一実、 玉井 清志、鶴本 一成、 津賀 裕喜、坂巻 彩夏、 仲 貴子	専任・兼任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

● 基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ（見学実習）	1年後期	リハビリテーション概論	1年前期
		基礎理学療法学	1年前期
臨床実習Ⅱ（評価実習）	3年後期	理学療法評価学Ⅰ	1年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		臨床技能演習	3年前期
臨床実習Ⅲ（総合臨床実習）	3年後期	理学療法治療学Ⅰ（運動系）	2年後期
		理学療法治療学Ⅱ（中枢神経系）	2年後期
		理学療法治療学Ⅲ（内部障害系）	2年後期
		理学療法治療学Ⅳ（小児・神経系）	2年後期
		臨床技能演習	3年前期
臨床実習Ⅳ（総合臨床実習）	4年前後期	理学療法治療学Ⅰ（運動系）	2年後期
		理学療法治療学Ⅱ（中枢神経系）	2年後期
		理学療法治療学Ⅲ（内部障害系）	2年後期
		理学療法治療学Ⅳ（小児・神経系）	2年後期
		臨床技能演習	3年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	帝京平成大学自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	委員長：沖永 寛子（学長） 専攻からの委員：関 一彦（学科長）、田中 直樹 専攻の評価チーム：田中 直樹、日置 麻也、平山 哲郎
組織の開催頻度	年度内に2乃至3回
組織の取り組み内容	大学レベルでの自己点検・評価の実施と結果の公表 学位プログラムレベル（学科・コース等）での本学教育評価基準に基づく自己点検・評価の実施 本学アセスメント指標となる学内データの収集とそれに基づく点検・評価 教育成果把握のための各種調査（学修行動と学修成果に関する調査、卒業生に対する調査、就職先企業等に対する調査等）の結果に基づく点検・評価
自己点検・評価結果の公表	大学ホームページでの公表 https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

【全学での仕組み】

該当する 仕組み	名称	シラバス記載内容の点検
	委員構成等	各学科長、教務委員会構成員
	改善の仕組みの実際	本学シラバス作成要領に基づき、各教員がシラバスを執筆した後、教務委員会にて周知のうえ、学科長および教務委員が内容の点検を実施している。点検の結果、修正内容については報告書の提出を依頼し、提出された報告書をもとに修正内容を確認することで、シラバス内容の改善を図っている。

【専攻での仕組み】

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	田中直樹、日置麻也
	改善の仕組みの実際	記載項目について必ず学科内委員のチェックと修正を必須としている

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>1. 分科会（例年4月の専任教員説明終了後開催）での前年度総括と今年度方針の周知</p> <p>1) 学科長・コース主任</p> <p>2) コース各部門長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生教育担当：日置 麻也 ・臨床実習担当：五日市 克利 ・国家試験担当：仲 貴子 ・国際交流担当：佐藤 正司 ・入試、広報担当：五日市 克利 <p>2. 定例コース会議（1回/月）での、今年度の進捗状況確認と必要時に是正対策検討</p> <p>3. 学科長・コース主任と自己点検評価委員（リーダー1名含む）との定期的な点検・確認・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー：田中 直樹 ・ほか：日置 麻也・平山 哲郎 <p>4. 教学マネジメント室との連携</p>
